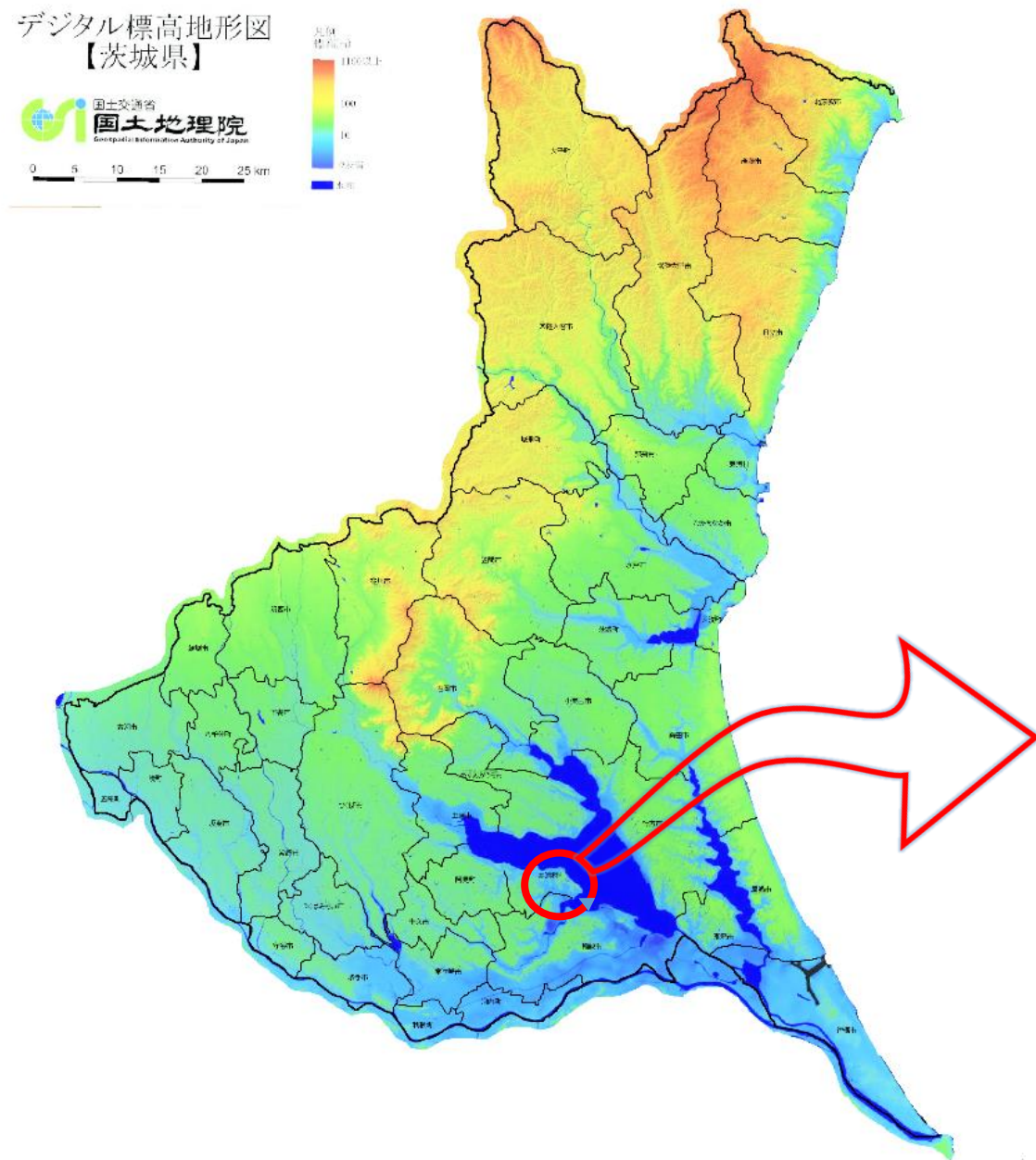


種の保存法における国内 希少野生動植物種の カドハリイの紹介と保全

茂垣はるえ（茨城県 生物多様性センター）

1. 妙岐ノ鼻湿原(霞ヶ浦の最後のヨシ原)



カドハリイ（カヤツリグサ科）の国内で唯一の産地：妙岐ノ鼻湿原

霞ヶ浦浮島湿原は通常妙岐ノ鼻湿原と呼ばれている

2. カドハリイの生育する妙岐ノ鼻湿原



春 ヨシの芽が伸び始めた5月の湿原。 夏 草丈の高いヨシが繁茂する8月の様子。 秋 ヨシが枯れた11月の様子。



妙岐の鼻野鳥カレンダー
— 妙岐の鼻で野鳥が過ごす時期 —

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
オオセッカ												
オオヨシキリ												
コジュリン												
セッカ												
ミサゴ												
チュウビ												
ハイロチュウビ												
ゴチウゲンボウ												
ヨシゴイ												
ヒクイナ												

緑色の棒: 生息時期
赤色の棒: 渡り時期

※ 渡り時期は、観察者の目撃情報に基づき、必ずしも正確な時期ではありません。

妙岐ノ鼻湿原は水資源機構が所有し、同機構によって管理されている。広さは約50 haに及ぶ広大な低層湿原で、ヨシを中心として数々の希少な動植物が生育・生息している。これまで開発をされずに残った貴重な湿原である。

カドハリイの他にも、カモノハシ、ナガボノワレモコウ、ミズチドリ、カキツバタなどの植物が見られ、昆虫ではオオルリハムシ、哺乳類ではカヤネズミなどが生息している。特に鳥のオオセッカやコジュリンの棲息地として、渡り鳥のチュウビの越冬地としても知られている。

この貴重な湿原を保全するため、火入れなどの活動がなされている。

冬 野鳥観察の望遠鏡が並ぶ12月の様子。

3. カドハリイ (*Eleocharis Tsurumachii* Ohwi) の形態

2022年1月に、種の保存法における国内希少野生動植物種（特定第1種）に指定。

カドハリイ(カヤツリグサ科)は1931年茨城県行方郡玉造町(現在の行方市)で鶴町猷氏によって発見され、1933年に大井次三郎氏によって新種と命名された(野口, 1986). その後、発見された玉造町では絶滅してしまい、現在では同県稲敷市浮島の妙岐ノ鼻湿原にのみ生育している。

カドハリイは、妙岐ノ鼻湿原の北部側のごく限られた範囲に見られる。



カドハリイ

稈は高さ60～80 cm，直立した茎がまばらに叢生し，株はあまり大きくなりません。茎はやや柔らかく4稜がある。

花は6～9月に咲き，茎の先端に長さ約1 cmの小穂をつける。

カドハリイの小穂は先端が丸く，稈にほぼ真っ直ぐに付くのが特徴である。



小花

鱗片は丸みおび約5 mm. 柱頭は3岐
瘦果は三稜形約1.8 mm. 花被片は6本.
花被片に下向きの短い小刺がある。

4. 妙岐ノ鼻湿原に見られるハリイ属 (*Eleocharis*属) の4種の特徴

妙岐ノ鼻湿原に生育するハリイ属には、ミツカドシカクイ、カドハリイ、マシカクイの他に、カドハリイとミツカドシカクイの推定雑種ミョウギノハリイ(Yasiro & Endo, 2017)がある。

1) 稈の断面の形の比較

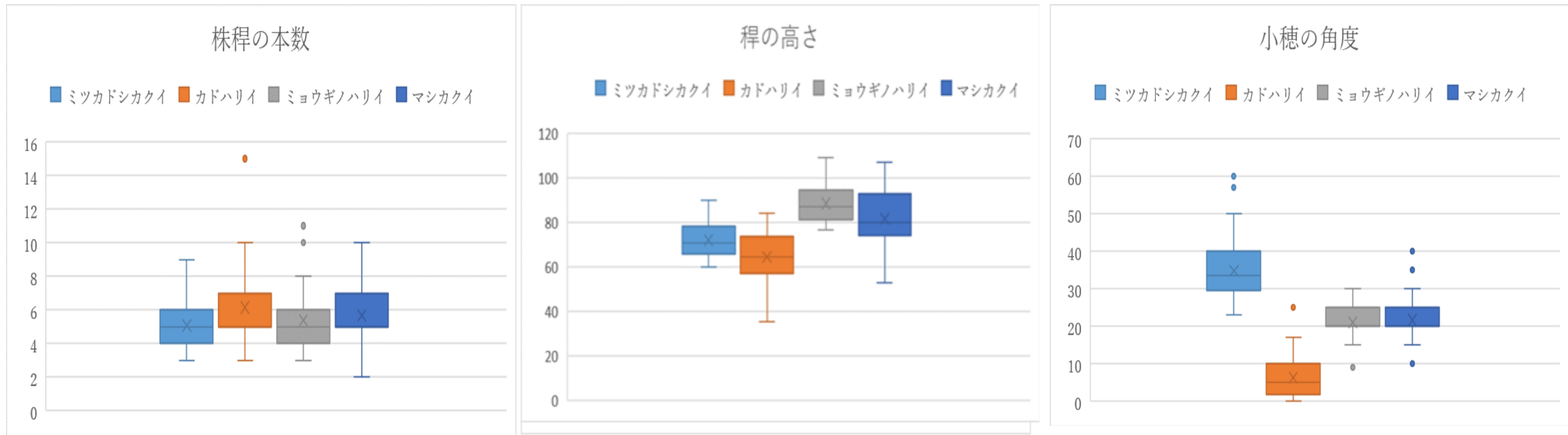


A ミツカドシカクイ (*E. petasata*) B カドハリイ (*E. Tsurumachii*) C ミョウギノハリイ (*E. ×myogiensis*) D マシカクイ (*E. tetraquetra*)

ハリイ属の4種 上段：全体写真 下段：稈の断面写真

- A 断面はほぼ正三角形で、稈は4種の中で最も細い。
- B 4稜があるが均一でなく歪んだ四角形で、稈は4種の中で最も柔らかい。
- C 歪んだ5角形をしている。稈は4種の中で最も太い。
- D 断面はほぼ正方形で明確な4稜があり、稈は4種の中で最も固い。

2) 株の本数, 稈の高さ, 稈と小穂の角度の比較



それぞれの個体30本の稈を測定した結果のグラフ（茂垣, 未発表）

- ・ 株の本数：優位な差は見られなかった。
- ・ 稈の高さ：ミツカドシカクイとカドハリイの雑種であるミョウギノハリイは中間型を示すと予想したが、その両親よりも高く、これは雑種強勢を思わせる。
- ・ 小穂と稈の角度：カドハリイはほぼ真っ直ぐであり、他種と著しく異なる。また、ミツカドシカクイは大きな角度を示している。ミョウギノハリイは両親の中間を示している。

3) 開花期・結実期の比較

	6月	7月	8月	9月	10月
ミツカドシカクイ					
カドハリイ					
ミョウギノハリイ					
マシカクイ					

花期結実期が最も長いのはカドハリイでミツカドシカクイと時期が重なる。
また、両種の分布域が重複する所にミョウギノハリイが見られた。（茂垣,未発表）

5. 環境の保全(萱刈と火入れと外来種の抜き取り)

萱刈



カモノハシ（イネ科）



萱の束



水戸市偕楽園好文亭

- ・カモノハシは萱のブランド「しまがや」の主演。カモノハシの割合が大きいほど品質が良い。
- ・カドハリイはカモノハシと同所的に生えているので「しまがや」の中に含まれている。
その他にトダシバ，チゴザサなどが混在する。
- ・水戸市偕楽園の好文亭の屋根にも，この「しまがや」が使われている。

火入れ



妙岐ノ鼻湿原の火入れは、一時休止していたが2019年から、毎春実施している。

2024年3月には、50 ha中の約40 haに火入れをした。

特定外来生物の除去



侵入したナガエツルノゲイトウ。

丁寧に根を掘り起こしているところ。

太く長い根

引用文献

野口達也, 1986. 北関東産カヤツリグサ科の検討 (1) カドハリイについて, 茨城植物研究, 1: 83-85.

Yasiro K. & Endo Y., 2017. *Eleocharis* × *myougiensis* (Cyperaceae): A new hybrid from Myouginohana Marsh, Lake Kasumigaura, Japan. *J. Jpn. Bot.*, 92: 157-164.